

泉大津市社会教育委員会議

■令和4年度第3回会議の議事概要

日 時：令和5年1月27日（金）午後1時00分～2時55分
場 所：地域安全センター 2階
出 席：車谷委員、木野委員、井上委員、岡崎委員、祐仙委員、楠本委員
欠 席：富山委員
公開の有無：公開（一部非公開）
傍 聴 者：なし

議 題

1. 泉大津市教育施設再編計画（案）に対するパブリックコメントの結果について（報告）（非公開）
2. 泉大津市立学校施設の使用に関する条例制定の件について（非公開）
3. 泉大津市生涯学習推進計画の見直しについて

報 告

- ① 泉大津市子供の読書活動推進計画の策定について
- ② 泉大津市オリアムデジタルヒストリーの開設について
- ③ 大学連携事業について
- ④ 令和4年度地域運動部活動推進事業について
- ⑤ 二十歳のつどい事業について

その他

- ① 泉北・泉南地区社会教育研修会について

議事概要

議題

1. 泉大津市教育施設再編計画（案）に対するパブリックコメントの結果について（報告）（非公開）
 - ・事務局より泉大津市教育施設再編計画（案）に対するパブリックコメントの結果について（報告）について、説明を行う。
2. 泉大津市立学校施設の使用に関する条例制定の件について（非公開）
 - ・事務局より泉大津市立学校施設の使用に関する条例制定の件について説明した後、質疑、意見交換を行った。
3. 泉大津市生涯学習推進計画の見直しについて
 - ・事務局より泉大津市生涯学習推進計画の見直しについて、説明を行う。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

報告

① 泉大津市子供の読書活動推進計画の策定について

- ・事務局より学泉大津市子供の読書活動推進計画の策定について報告した後、質疑、意見交換を行った。

《主な意見等の内容》

岡崎委員：子どもたちの意見からボトムアップでというアプローチはいいと思う。

資料を見らる中で一つは、これまでの取り組み状況と課題では、これまでの学校での読書活動がどうだったのかということよりは、これからどうするのかということ位置づけてほしい。学校における読書活動は極めて重要で生涯学習課だけでできることではない。学校教育の中でどう位置付けるのかということと、学校との連携が重要なキーワードになってくるので、学校の先生にも積極的にこのプロジェクトには参加してもらったほうがいいのでは。

あと、資料については出所がわからないし間違いもあるので、どこの資料かわかるように出典を明記したほうが資料が独り歩きしても大丈夫かなと。

報告

② 泉大津市オリアムデジタルヒストリーの開設について

《議事進行》

- ・事務局より泉大津市オリアムデジタルヒストリーの開設について報告した後、質疑、意見交換を行った。

《主な意見等の内容》

井上委員：確かにデジタルアーカイブを作るということは文化財の世界では重要視されているし、教育だけではなくて地震が起きたときのリスクマネジメントの観点でもデジタル的に文化財を管理していく必要はある。

もう一つは、文化財を残すことの意味、本物を残さないと意味がないし、本物に触れないと意味がない。学生によってはデジタルだけでいいという人もいるが、そのことの重要性をわかってない。デジタルを充実させていろんな人にアクセスしやすい環境を作っていくということは大切だが、もう一歩踏み込んでそこから本物にアクセスするという橋をつなげていていただきたい。本物を通じての感動が、一歩進んで教育という部分で意味のあるものとなっていくと思う。

祐仙委員：デジタルアーカイブは本当にいいと思っている。先日、テレビで芸人の兵頭さんが泉大津に来られて、テクスピアとか現物が展示されているいろんなところを回っていた。ユーチューバーの東海オンエアもこの間泉大津に来ていて、注目されているなと思った。そういうことをきっかけに盛り上がったなら、自分た

ちに住んでいる泉大津への愛着がわくのではないかと。デジタルアーカイブでは写真がいろいろあがっているけれども、どこに行けば見れるのかというのが画面でわかれば、実際につながっていくのでは思う。

③ 大学連携事業について

《議事進行》

- ・事務局より大学連携事業について報告したのち、大学連携事業に関わる各委員より補足説明を行った。

《主な意見等の内容》

岡崎委員：夏の日高川キャンプでは、日帰りで時間の制約があったので、いろいろ課題が見えてきた。もともと泉大津市と日高川町との友好都市に基づく交流なので、子どもたち同士の交流がもっとあってもいいとか、環境学習という意味でもっと自然環境に触れられるほうがいいなど、次年度そのあたりの課題を克服していきたいと考えている。

クリスマスイベントについては、多くの方に参加していただいた。このイベントは7、8回やっていると思うが、最近の傾向として小学生から幼児とその保護者が増えてきたように思う。もともと消費者問題、消費者教育がキーワードで行っているので、今後もその学びにつなげられるようにしていきたい。

井上委員：この展示に関しては、桃山大学の持っている資料を使って、泉大津市と連携できるのはいいことだと思う。学芸員課程の学生の授業で学院史料室の展示室を使って泉大津市と連携して展示しているときに、うちの学生にも手伝ってもらって何かできないかと考えている。これまでは学生が貴重なものを触って壊したらどうしようとためらっていたが、教室の中の授業だけではなくて実物に触れるという部分を考えた上で、こういった展示を見せるだけではなく、作り上げていく過程で学生の教育に生かせればと考えている。

④ 令和4年度地域運動部活動推進事業について

《議事進行》

事務局より令和4年度地域運動部活動推進事業について報告した後、質疑、意見交換を行った。

《主な意見等の内容》

木野委員：令和5年度から地域部活動に移行するということで、受け皿となる団体としてはこういった研修会とか現状がどうなっているのかがわかってよかったと思うが、もうちょっと余裕をもって考えられるようにしていただければと思う。

近藤課長：補足として、今報告した事業の他に大阪体育大学がグッドコーチを養成し、各中学校で指導してほしいというところとマッチングして派遣している。東陽中

学校のバスケットボール部女子にも指導者を派遣していただくこととなり、今後、指導者が不足してくる中、こういった学生とのマッチングも今年度から行っている。1月25日の読売新聞にも掲載されたので情報提供する。

⑤ 二十歳のつどい事業について

《議事進行》

事務局より二十歳のつどい事業について報告した後、質疑、意見交換を行った。

《主な意見等の内容》

楠本委員：自分が二十歳のとき小学校の先生が来てくれて嬉しかったので、中学校の先生のビデオメッセージは喜んでいると思う。あと各学校も6年生のときの写真を上げていただいていたのでそれもいいなと思った。

その他

① 泉北・泉南地区社会教育研修会について

《議事進行》

事務局より泉北・泉南地区社会教育研修会について報告した後、質疑、意見交換を行った。

《主な意見等の内容》

楠本委員：本日の議題とも被るがクラブ活動の土日を地域移行するとなった場合にどうしていくかということで、学校教育と社会教育を分けるのではなく一緒になってやらないといけないということだった。講師の先生がやっているところは、学校の先生、PTA、地域の人に加えて、生徒会の代表にも入ってもらって法人を作っており、その理事に生徒会の子どもも入るようにしているとのこと。子どもたちに入って決めてもらって大人たちが子どもたちのやりたいことを実現していくということと、今までは1つのクラブ、野球部だけとか、サッカー部だけをしていたが、そうではなくていろんなクラブをする子とか週1回だけの子とかいろんな形があり、諸外国では当たり前で、1つのスポーツだけすると体を壊しやすいので、いろんなスポーツをしてくださいという話があった。団体を作るのは5年ぐらいかかりすごく時間がかかるし、次にやってくれる人を育てるのもすごい時間がかかるし大変であるというお話があった。

木野委員：部活動の地域移行について、働き方改革、先生方の残業時間、少子化、顧問の問題から部活動改革が出てきたと思うが、実際は令和5年4月から段階的に地域クラブ活動に移行していくということで、令和5年度は月曜から金曜が学校部活動、土日祝が地域部活動でやっていこうとなっている。プラス面としては専門的な指導者による指導が受けられるとか、先生の残業時間の削減、いろんな種目に関われること。マイナス面として地域で面倒を見てくれる団体が必要で、ポイントとして言われていたのは、地域クラブ活動にすることは学校管理下

外の活動となるので、けがした場合の責任問題、安全面、連絡調整などの問題、費用面では保険、講師謝金、会場費などの問題もある。平日と土日の指導の方法も顧問が違うので違ってくる。地域クラブ活動、合同部活動となったときに中体連の大会に出れるのか、学校の代表で出るのか、地域の代表で出るのかなどの問題が出てくるという話があり、受け皿となる団体はそのあたりを注意して考えておいたほうがいいとのことであった。

それと、部活動を地域移行するには最終的に2つの方法しかないと言っておられた。1つは先生の仕事ではないということで、どこが担うのかというのは地域に全部任せる、アウトソーシングして民間に任せて塾みたいにしておわってしまう。もしくは地域移行を一つのきっかけに学校改革、まちづくりをするかのどちらかで、それを決めるのは自治体だとおっしゃっていた。講師の先生は、学校内に総合型の平野クラブというのを作って、そこの会長になって中から外に発信しながら地域移行を目指している。もう一つのやり方としては、どこまでできるのかという問題はあるが、学校と受け皿の団体が最初は補助から始まって、連携、最終的に協働の順で一心同体でやっていくか。

結論としておっしゃられていたのは、部活動はなくなると言われているが仕組みを変えて、形を変えて行うということで、学校改革、まちづくり、仕組みを変えろというワードは、学校施設を使って地域の人と協働するという事で地域移行もそれではないかという感じを研修会で受けた。

今日の議論とも一緒にコミュニティスクール、地域交流ゾーンで学校教育施設を社会教育施設として外の団体が使うということですべてつながってくるのかなと、地域移行もそうっていいのかなと。スポーツだけではなくて、吹奏楽、書道などの文化、芸術も同じことで学校教育、社会教育といわず子どもたちを育てる仕組みをつくらないといけないと感じた。5、6、7年度の3年間で地域移行しましょうと言われているが、あくまで目標なので受け皿となる団体もしっかり体制を整えないと仕組みがうまく機能しなくて困るのは結局子どもたちであると感じた。

終了 14:55